Benesse® お茶の水ゼミナール

慶應義塾大学　商学部

論文テスト

総　論

満　点　100 点	目標得点　80 点	試験時間　70 分	偏差値　72
大問数　4	小問数　58		
〔解答形式〕	選択式　51/57 問	記述式　2 /57 問	論述式　4 /57 問
〔問題難易度〕	C　7 /57 問	B　9 /57 問	A　41/57 問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す			

Topics

1：商学部はB方式のみ「論文テスト」が課される。A方式はその代わりに数学が課される。

2：「論文テスト」という名前からは想像しにくい、客観形式と短論述形式の問題の組み合わせである。時間は 70 分であり、問題量からすれば短い。

3：条件付確率や、論理・命題などといった題材から出題することで、数学で受験しなかった者でも最低限必要な論理と計算の能力を試そうとしていることが最大の特徴である。

こんな力が求められる！

1：現代文・漢文・古文の基本的な力は当然として、数学で確率と論理・命題の項目の基本を理解できる力が求められる。とりわけ、人間の意思決定の仕方について数学的に研究すること（「ゲーム理論」と呼ばれる）は高校の授業では扱われないが、慶應商学部の「論文テスト」では頻出テーマなので、過去問等で演習するとよいであろう。

2：お茶ゼミ「論文」の授業ではこうした演習を適宜取り入れているが、経済学部を併願する人が多いため、共に演習することによって一石二鳥の効果が期待できる。

参考図書

過去に出題されたことのある、友野典男著『行動経済学―経済は「感情」で動いている』（光文社新書、2006 年）、小島寛之『確率的発想法―数学を日常に生かす』（ＮＨＫブックス、2004 年）は、慶應商学部の出題傾向に慣れるためにはよい本である。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

大 問 別 分 析

【Ⅰ】

予想配点　15 ／ 100 点	**時間配分の目安**　10 ／ 70 分
出題形式　選択問題	
テーマ　中国や日本の古典文学、日本の近代文学などの作品に見られる著名な語句の知識の有無を問う問題。	
出典　中国・日本の古典・近代日本文学の各作品	
設問形式　選択問題	
小問別難易度　※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す （ア）B　（イ）C　（ウ）A　（エ）A　（オ）C　（カ）C　（キ）C　（ク）A　（ケ）A （コ）C　（サ）A　（シ）A　（ス）C　（セ）A　（ソ）C ⇒６割越えが目安。８割～９割程度の正答も可能。	

●解答のポイント＆学習対策等

一種の教養問題。漢文・古文の学習をきちんとしておけば特別の学習は不要。「祇園精舎の鐘の声」（「平家物語」）などの代表的な作品の冒頭部分や有名な場面の文章は覚えておくとよい。また「出藍の誉れ」「四面楚歌」「疾きこと風の如し」等といった有名な成句や言葉も整理して確認しておこう。

【Ⅱ】

予想配点　19（A完成＝8 点/B完成＝11 点）／100 点 （注）Ⅱは１問正解につき１点が基本だが、文章全体が正確に完成できたときには、完成ポイントとしてAは２点、Bは３点が加算されるものとして予想。
時間配分の目安　10／70 分
出題形式　選択問題
設問形式　文章整序
小問別難易度　※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す　A

●解答のポイント＆学習対策等

文章整序の問題は、文と文との間の論理的なつながり（文脈）を的確に把握できる力が求められる。

A「２」の「これに加えて」の「これ」や、「３」の「後者はともかく、前者……」の「後者」「前者」が何を指示するのかが分かれば正解しやすい。

B「３」の「というわけで」「４」の「ところが」、「６」の「しかし」といった接続語に注意すると、各文の前にどの文が来るのかの判断が容易になる。

本問に限らず「指示語」と「接続語」に注目するのは整序問題の基本である。

【Ⅲ】

予想配点　34（問１～４＝13 点 ／ 問５＝５点 ／ 問６＝16 点）／ 100 点
時間配分の目安　25 ／ 70 分
字数　（問５）25 字以内　（問６）80 字以内
出題形式　計算問題・選択問題・短字数記述問題の混合型
テーマ　条件付確率の基礎知識の有無と計算能力、論理・命題の基礎知識と理解の有無を問う問題
出典　三宮真知子「情報に対する合理的判断力を育てる教育実践研究の必要性」日本教育工学会論文誌
設問形式　問１・問２・問３＝選択　問４＝記述　問５＝短字数論述
小問別難易度　※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す （問１）A　（問２）A　（問３）B　（問４）B　（問５）A　（問６）B

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

●解答のポイント＆学習対策等

（問１）（問２）問題文を注意して読めば正解が可能。ただし条件付確率の知識があれば容易に全問正解できる。

（問３）初歩的レベルだが、条件付確率の知識がないと計算式を立てるのが少し難しいかもしれない。この問題は次の計算式で解くことができる。

$$\frac{1}{1000}\times\frac{95}{100}\div\left(\frac{1}{1000}\times\frac{95}{100}+\frac{999}{1000}\times\frac{5}{100}\right)\times 100$$

（問４）命題・論理の基本的な用語の知識が必要。

（問５）問題文の（ア）の次の段落を読めば分かる。「表面的には異なる２つの問題の間に共通構造を見出すことが転移を起こさせるとしても、サポートもなしに共通構造を発見することはそれほど期待できない」という記述に即して解答すればよい。

（問６）（イ）「転移（正の転移）」の意味内容が把握できていないと正答は難しい。たとえば、英単語の暗記をするときに、声に出して発音すると暗記しやすいことを発見した生徒が、古文単語の暗記の場合にも同様に声に出して覚えると覚えやすいのではないかと気がついた場合、「転移（正の転移）」が生じていることになる。このように身近な体験に即して考えてみると効率的。

【Ⅳ】

予想配点	32（問１＝13 点 ／ 問２＝３点 ／ 問３＝８点 ／ 問４＝８点）／ 100 点
時間配分の目安	25 ／ 70 分
字数	（問２）15 字以内　（問３）40 字以内　（問４）40 字以内
出題形式	選択問題・記述問題・短字数論述問題の混合型
テーマ	ゲーム理論の基礎知識と理解の有無を問う問題
出典	逢沢明『ゲーム理論トレーニング』かんき出版
設問形式	問１＝選択　問２＝記述　問３・４＝短字数論述
小問別難易度 （問１）Ａ　（問２）Ａ　（問３）Ｂ　（問４）Ｂ	※問題難易度：Ｃ難問、Ｂ合否を分ける問題、Ａ正答すべき問題、を示す

●解答のポイント＆学習対策等

（問１）（問２）問題文を注意深く読めば正解は可能だが、ゲーム理論の基本的な知識があれば容易に正答ができる。ゲーム理論では、「個人も組織も、自己の利益になる選択をし、自己の損失になる選択は回避するように行動する」という考え方を原則としている。問題文でも、「大手チェーンストア」も「零細小売店」も博愛主義や人道主義といった観点は一切抜きにして、自己の利益になるか否かだけで、出店や経営方針を決めるものだという前提で述べられている。こうしたゲーム理論独特の観点に慣れておかないと問題文の理解自体が十分にできない可能性もある。ゲーム理論は高校の一般の授業では扱われないが、慶應商学部の論文試験では頻出テーマなので、過去問を解いて練習しておくことが望ましい。

（問３）「零細小売店」と「大手チェーンストア」の取り扱い商品が重なることになるので、商品の競合によって利益が損なわれるのを回避するために、「大手チェーンストア」は商品価格の値下げなどによって「零細小売店」に攻撃をしかけ、その結果「零細小売店」は損失を被ることになる。

（問４）ゲーム理論の観点に基づくならば、「大手チェーンストア」は自分の利益になるから、（ウ）のような行動に出るということになる。たとえば「大手チェーンストア」は「零細小売店」から賃貸料を徴収することによって、実質上「零細小売商」が「タダ乗り」できないようにすることが出来る。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.